

まちづくり意見募集(パブリックコメント)の結果公表

新嵐山スカイパーク再生基本計画(案)に対して、住民の皆様からご意見を募集しました結果について、ご意見の概要と町としての対応・考え方は下記のとおりです。

ご意見をお寄せいただきありがとうございました。

【意見募集結果】

案 件 名	新嵐山スカイパーク再生基本計画(案)		
募 集 期 間	令和7年12月23日(火)～令和8年1月25日(日)		
意 見 の 件 数 (意見提出者数)	2件(2人)		
意 見 の 取 り 扱 い	修正	案を修正するもの	0件
	既記載	既に案に盛り込んでいるもの	0件
	参考	今後の参考とするもの	1件
	その他	意見として伺ったもの	1件
意 見 の 受 け 取 り	持参		0人
	郵送		1人
	ファクス		0人
	電子メール		1人

※いただいたご意見については、原文のまま掲載しております。

【意見等の内容】

番号	ご意見	ご意見に対する考え方	取り扱い
1	<p>率直に申し上げ、このような計画しか立てられない経営感覚だから破綻させたのだと思います。破綻させた反省と再生の意思が全く感じられません。</p> <p>再生とは言わない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは再生計画ではなく、単なる施設整備計画ではないか。施設の老朽化に伴う再配置計画であり、再生には程遠い。何を目指すのか不明確。誰にとってどのような価値を提供する場所にしたいのか、最も重要なビジョンが欠落している。再生の定義、達成条件とは何か。 <p>致命的な欠陥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の破綻原因への対策が書かれていません。構造的課題に対する具体的な解決策や再発防止のためのルールが記述されていません。また、議会や住民への説明不足をどう改善するかも示していません。 <p>決め事なし、責任感なし、経営感覚なし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検証報告で記載されていた決め事(いつまで、どこまで支援するのか)に対する記載がない。町の財政負担の根拠と上限、目標未達成時の見直しや撤退基準、責任の所在といった、将来の財政リスクと責任を明確にするための「決め事」が全く記載されていません。これは、過去の反省を全く生かしていない。「どこまで税金が投入されるのか」「失敗した場合の責任は誰がとるのか」も判断できない内容を見せられても意見の言いようがないのではないか。無責任である。 <p>過去の議会からの反対の意味は何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これで理解を得られる内容だと真に考えているのだろうか。 <p>同じ過ちを繰り返す恐れ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破綻の責任を痛感している者が作成した内容ではない。 <p>結論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再度、意見募集に値する材料を提供すべき。 	<p>町は、新嵐山スカイパークの再生に向け、「新嵐山スカイパークのあり方の骨格」(令和5年度)及び「新嵐山スカイパークのグランドデザイン(全体的な構想)」(令和6年度)を策定するとともに、「新嵐山スカイパーク再生基本構想」(令和7年度)により新嵐山スカイパークの再生に向けた基本方針及び整備方針を明らかにしており、新嵐山スカイパーク再生基本計画では、新嵐山スカイパークの施設や設備の老朽化への対応、実施する施設整備や概算事業費等を明らかにしています。</p> <p>これらのなかで、基本理念を定め、新嵐山スカイパークを町民の憩いの場であるとともに、本町最大の観光地として早期の再生を目指すことやメムロスキー場を社会体育施設に類する機能として位置付けること、町民の皆様のご意見やご要望をお聞きしたうえで、優先度の明確化、町財政の負担軽減及び運営の効率化、安定的な施設運営を目指すとしています。</p> <p>これらの策定にあたっては、第三セクター「新嵐山株式会社」の検証を教訓とした今後の施設の管理運営、第三セクター方式の考え方などもふまえた再生に向けた考え方をめむろ未来ミーティングや町民説明会、スキー団体の皆様との意見交換などで町民や利用者の皆様に説明し、ご意見をいただきながら取組を進めてまいりました。</p> <p>町の貴重な資源、財産である新嵐山スカイパークの再生にあたっては、さまざまのご意見、ご要望、考え方があり、今後も、議会や町民の皆様のご意見をいただきながら取組を進めてまいります。</p>	【その他】

2	<p>・新リフトについて 新リフト終点が展望台付近となっておりますが、そこからCコースへのルートは現在の第二リフト降り場付近まで尾根沿いとなります。このルートはコース幅狭い片斜面。Cコースを利用する初心者には難しいのでは？難しいと停滯者、休憩者、転倒者など多数となり事故リスクが上がります。尾根を削り幅を広げるのは現実的では無いような。今の第二リフト同等の降り場として、そこからもう一本展望台付近までのリフト二本が良いのでは？</p> <p>・キャンプ場について 個人的な見解ですが、キレイに整備されたキャンプ場はファミリーが多いと思っています。 ファミリー利用者は、キレイなトイレと入浴施設がセットとなるキャンプ場が好まれるのでは無いでしょうか？残念ながら今後入浴施設の設置はないのでキャンプ場利用者の想定数を下回ることが十分考えられます。経過観察が重要となりそう。</p> <p>・夏のゲレンデの利用について(一案) 日常的に、登山用に歩く道を整備しては？更に、近年全国的に、トレイルラン、ヒルクライムが流行しています。Monbel の協力のもと(知名度のもと)ゲレンデ駆け上がりイベントはいかがでしょう。関連して夏季のリフト運行には採算性を十分検討すべき。</p>	<p>新リフトにつきましては、夏季運行も見据え、展望台を終点と想定しています。 ご意見いただいたとおり、現在のコースでは初心者の方の利用が難しいことも想定されますので、新たにCコースへの動線の整備を検討しています。 なお、リフトの更新につきましては、メムロスキー場の規模、利用者数、整備費や運行にかかる費用により、1本に統合したうえでの更新としています。</p> <p>キャンプ場につきましては、入浴施設の整備が難しいことから、他のキャンプ場にあるようなシャワー室の要望をいただきしており、今後、新ロッジの検討を進めるなかで、キャンプ場利用者もご利用いただけるシャワー室の設置もあわせて検討します。</p> <p>夏のゲレンデ利用につきましては、ご提案いただいた利用やめむろ未来ミーティングや説明会などではマウンテンバイク、各種イベントでの活用などの提案をいただいている。</p> <p>町では夏のゲレンデについては、指定管理者を含む民間事業者による利活用を想定しており、町民の皆様をはじめ、町外から来られる方からもご提案いただきながら、民間事業者とともに利活用を進める考えです。 なお、夏季のリフト運行につきましては、ご意見のとおり、採算性の面もあることから、整備後は当面、週末や祝祭日、イベント時の運行を基本とし、利用状況も見ながら運行方法を決定してまいります。</p>	【参考】
---	---	---	------